

## 再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課:都市局 街路交通施設課

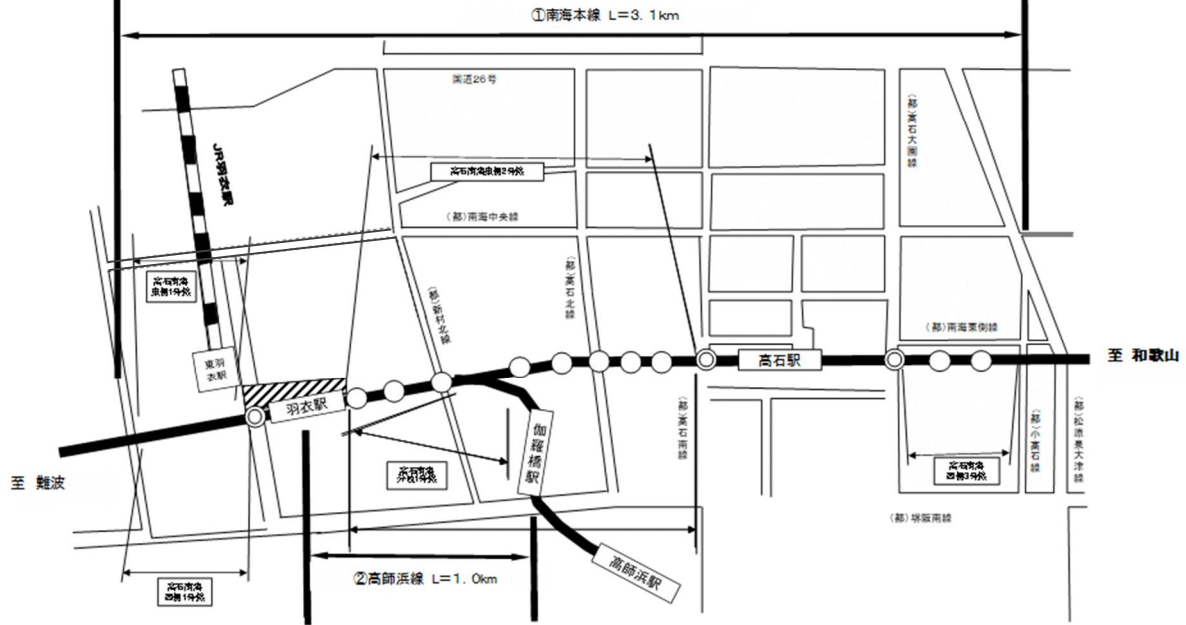
担当課長名:筒井 祐治

事業名 連続立体交差事業 南海電気鉄道南海本線・高師浜線 (羽衣駅～高石駅付近)	事業区分	連続立体交差	事業主体	大阪府	
起終点	自:大阪府高石市東羽衣一丁目 至:大阪府高石市綾園七丁目			延長 約4.1km	
事業概要 南海電鉄南海本線・高師浜線の羽衣駅～高石駅付近約4.1kmにおいて鉄道を高架化することにより、13箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業。					
平成9年度事業化	平成8年度都市計画決定	平成9年度用地着手	平成17年度鉄道工事着手		
全体事業費	約768億円	事業進捗率	約98%	供用済延長 約4.1km	
計画交通量	137,985台・時/日(踏切交通遮断量)				
費用対効果分析 <small>(参考)</small>	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	1.02	4.2%	23/1,220億円	27/1,246億円	令和7年
	1.8 [2%]	(事業費: 21/1,218億円)	(移動時間短縮便益: 25/1,199億円)		
	2.5 [1%]	(維持管理費: 1.8/ 1.8億円)	(走行経費減少便益: 2.0/ 4.5億円)		
	(残事業)	(残事業)	(交通事故減少便益: 0/ 42億円)		
1.2	5.1%	(事業全体)	(残事業)		
(参考)		交通量	B/C=0.92~1.1(±10%)	交通量	B/C=1.1~1.3(±10%)
1.6 [2%]		事業費	B/C=1.02~1.02(±10%)	事業費	B/C=1.1~1.3(±10%)
2.0 [1%]		事業期間	B/C=1.02~1.02(±20%)	事業期間	B/C=1.2~1.2(±20%)
事業の効果等 ・踏切除却により踏切事故が解消される。 ・踏切除却及び渋滞緩和により緊急車両の通行が容易になる。 ・駅及びその周辺施設の整備にあわせバリアフリー化が促進される。 ・駅の高架化にあわせて、駅前周辺のまちづくりを一体的に進めることにより駅前広場や駅周辺の道路整備が促進され、交通結節機能が向上し、地域の活性化が図られる。					
関係する地方公共団体等の意見 早期の事業完成を望んでいる。					
事業評価監視委員会の意見 継続について妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率100%、事業進捗率約98% 残事業は側道整備。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 工事進捗は97%となっており、平成28年5月に南海本線下り線、令和3年5月に南海本線上り線の高架切替により事業区間内の踏切の除却が完了済み。令和6年4月に高師浜線の高架化が完了し、全ての鉄道高架が完成。今後、環境側道の整備を行い、令和15年度末には事業が完了予定。					
施設の構造や工法の変更等 再生材を活用するなどコスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図

南海本線・高師浜線（高石市）連続立体交差事業

事業延長 L=4.1km



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)